



情熱介護

心に灯った“ありがとう”が導いた、介護への道 言葉に救われ、喜びに出会った—そんな“ありがとう”の物語



これまでどのような仕事をされてましたか？

職員A（インタビュアー）

スーパーのお花コーナーに向けてお花を卸す業務に従事していました。その他にも建設業で、公園や住宅の建築に携わったり、経理事務にも務めたりしたことがありました。



久家 篤弥様（インタビューイ）



なぜ介護の道に進もうと思ったのですか？

同級生の親友から「介護の仕事をしてみないか」と誘われたことがきっかけです。
これまでに3回誘ってくれていたのですが、最初の2回は断っていました。当時は建設業や事務の仕事がとても楽しく、何より私自身、認知症の祖母の介護を経験していたため、大変さを知っており「自分には絶対に無理だ」と思っていたからです。
それでも介護職に進むことを決めたのは、3回目に誘われたタイミングがちょうど祖母の葬儀中で、何かの“縁”を感じたこと、そして「他の仕事にも挑戦してみたい」という思いが重なったためです。
この出来事が、介護の世界へ飛び込む決意につながりました。



介護職に勤めるにあたって不安とか葛藤はありましたか？

介護に対して凄いトラウマがありました。20代前半の頃、母子家庭で一歳の子供の子育てと認知症の祖母の介護に日々追われていました。余裕もなくつい「おばあちゃんなんかいなかったら良かったのに、」とポロッとやってしまったことがありました。その後施設に入ったが一年で亡くなってしまいました。やってしまった後悔や日々色んな事に追われていた事もあり、一度も会いに行けませんでした。この経験がトラウマとなり、介護職に対して拒絶反応がでたりしていました。





しんどいからこそやりがいにつながるという考え方がとてもポジティブで素敵だなと感じました。久家さんが真剣に利用者の方の話を聞いているからこそ、利用者の方もたくさんお話をしてくださるのではないかと思います。もし差し支えなければ、介護職として働く中で「楽しかったこと」や「嬉しかったこと」、そして「やりがい」を感じた場面についてもお聞きしてもよろしいでしょうか？

ありがとうございます。私自身、いろんなお話を聞かせていただけて、本当に楽しいです。また、嬉しかったことといえば、ご家族や友人にも話せなかったことを「あなたなら」と自分にだけ打ち明けてくださったことです。人の役に立っていると実感でき、本当に嬉しかったです。介護の仕事はどうしても大変な事もありますが、日常生活中でなかなか得られない“直接の感謝の言葉”をいただけることは、大きなやりがいだと感じています。



直接感謝を伝えられるとやって良かったなと報われますよね。逆に未経験から介護の仕事を経験してみて、大変だったことや困ったことはありましたか？

そうですね。まず最初に苦戦したのは、利用者の方の顔と名前が一致しないことです。昔から人の名前を覚えるのが苦手で大変でした。それでも利用者の方をフルネームで呼んだり、積極的にコミュニケーションをとったりして関わる機会を増やして少しずつ覚えていきました。他には、利用者が異常を起こした時にどう対応すれば良いか困りました。下手に動かして取り返しのつかないことになってまずいので、ベテラン職員の方に変わってもらったり、変わってもらった時にはどうすべきだったかを教わるよう心がけました。



自分がどうすべきかをしっかり考えて行動されてきたんですね。最後にこれから介護職にチャレンジしたいという方に向けてメッセージいただけますか？

介護のお仕事は大変な事もありますが、その分大いにやりがいがあるお仕事です。介護のお仕事を三年間経験してきて、日頃からのコミュニケーションと実際にやってみることが大事であると気づかされました。失敗から学ぶこともあるので是非挑戦してください。



インタビュー協力 久家 篤弥 様
協力企業 ケア・ステーション